

申請者	奈良先端科学技術大学院大学 准教授 門林 雄基	2155003
国際会議名称	RAID 2015 (The 18th International Symposium on Research in Attacks, Intrusions and Defenses)	
開催期間	2015 年 11 月 2 日～11 月 4 日	
開催場所	京都テルサ（京都府京都市南区）	
申請者の役割	実行委員長	

概要：

RAID 2015 (The 18th International Symposium on Research in Attacks, Intrusions and Defenses) は学術、政府系および産業界においてサイバーセキュリティ分野を牽引する研究者ならびに実務家が集まる国際的なシンポジウムであり、世界各地のトップレベル大学、政府機関および IT 企業から参加者を集めた。

今日、人間と機械との不協和音がますます大きくなり、迷惑メールや情報漏洩、サイバー攻撃などの様々な問題を誘発しており、残念ながら、インターネットの商用化と普及から 20 年経った今でも無くなる気配がない。RAID はこれらの困難な問題に敢然と立ち向かう第一線級の研究者と実務家が世界中から結集し、近い将来サイバーセキュリティ分野において起こりうる問題を提起し分析するとともに、その解決策を模索し実データやシステム試作によって効果測定する、きわめて社会的意義の大きな国際会議である。

今回、RAID 2015 を京都にて開催することで、人材育成および研究水準の向上が急務であるサイバーセキュリティ分野において世界的なトップ研究グループと日本国内の研究グループとの研究交流の機会を設けることができ、日本ならびにアジア・太平洋諸国におけるサイバー人材の研究水準向上ならびに欧米とのプロフェッショナル・ネットワークの構築につなげることができた。

本シンポジウムには欧米およびアジアから 119 件の論文投稿があり、28 件の論文がプログラム委員会により採択された。欧米から日本への渡航費が高価であるため、財政的余裕があるとは言えない若手研究者らの発表辞退が懸念されたが、本助成制度を活用することにより 1 件の発表キャンセルもなく、シンポジウム開催を成功させることができた。